

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 08-231344

(43)Date of publication of application : 10.09.1996

(51)Int.Cl.

A61K 7/00
A61K 7/032
A61K 7/06
A61K 7/48

(21)Application number : 07-038153

(71)Applicant : KAO CORP

(22)Date of filing : 27.02.1995

(72)Inventor : KUWABARA KAZUO

HIDAKA YOSHIKI

TSUTSUMI TAKEHIRO

SUGAWARA SUSUMU

SAITOU MIZUE

(54) COSMETIC

(57)Abstract:

PURPOSE: To obtain a cosmetic containing an aqueous polymer emulsion, having excellent water resistance, gloss and film-forming property.

CONSTITUTION: This cosmetic contains 1-60wt.% (in terms of solid content) aqueous polymer emulsion obtained by copolymerizing a cycloalkyl group- containing monomer (e.g. cyclohexyl acrylate) having polymerizable double bond with a monomer (e.g. styrene) having double bond copolymerizable with the monomer in the presence of a plasticizer or film-forming auxiliary. The blend amount of the cycloalkyl group-containing monomer is 0.1-98wt.% based on total constitutional monomer in the aqueous polymer emulsion and the blend amount of the plasticizer and the film-forming auxiliary is 1-50 pts.wt. based on 100 pts.wt. of the above monomer. The cosmetic is applied to skin and hair and strong to perspiration and water and free from messy makeup and excellent in non-stickiness, quick dryness, high film hardness, water resistance, adhesion, abrasion resistance, etc., especially when used for nail enamel, etc.

LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

BEST AVAILABLE COPY

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-231344

(43) 公開日 平成8年(1996)9月10日

(51) Int.Cl. ⁶	試別記号	序内整理番号	P I	技術表示箇所
A 61 K	7/00		A 61 K	N
	7/032		7/032	J
	7/06		7/06	
	7/48		7/48	

審査請求 未請求 請求項の数4 O L (全7頁)

(21) 出願番号	特願平7-38153	(71) 出願人	000000918 花王株式会社 京京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号
(22) 出願日	平成7年(1995)2月27日	(72) 発明者	桑原 一夫 和歌山県和歌山市西浜1130 花王星和寮
		(72) 発明者	日高 由季 和歌山県和歌山市六十谷1223-61
		(72) 発明者	堤 武弘 大阪府大阪市舞2丁目4-4
		(72) 発明者	菅原 京 千葉県千葉市花見川区朝日ヶ丘1-3
		(72) 発明者	脊藤 みづえ 東京都田無市本町3-7-32
		(74) 代理人	弁理士 古谷 駿 (外3名)

(54) 【発明の名称】 化粧料

(57) 【要約】

【目的】 抗菌の耐水性と、優れた艶及び成膜性を有する化粧料の提供。

【構成】 重合可能な二重結合を有するシクロアルキル基含有單體と、該單體と共に重合可能な二重結合を有する單體とを構成成分とする水性ポリマー、マルショングを、固形分換算で1~50重量%含有する化粧料。

(2)

特開平8-231344

1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 重合可能な二重結合を有するシクロアルキル基含有単置体と、該単置体と共に重合可能な二重結合を有する単置体とを構成成分とする水性ポリマーエマルジョンを、固形分換算で1～60重量%含有することを特徴とする化粧料。

【請求項2】 シクロアルキル基含有単置体成分の含有量が、水性ポリマーエマルジョン中の全構成単置体成分に対して0.1～98重量%である請求項1記載の化粧料。

【請求項3】 シクロアルキル基含有単置体がシクロヘキシルアクリレート又はシクロヘキシルメタクリレートである請求項1又は2記載の化粧料。

【請求項4】 水性ポリマーエマルジョンが可塑剤または成膜助剤の存在下で重合してなるものである請求項1～3のいずれか一項に記載の化粧料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は化粧料に関し、さらに詳しくは抜群の耐水性と、優れた艶及び成膜性を有する毛髪化粧料、皮膚化粧料等の化粧料に関するものである。

【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】 従来、毛髪用、メイクアップ用、薬用等の化粧料には水溶性又は油溶性の成膜性ポリマーが配合されている。しかし、化粧料中に水溶性ポリマーを配合した場合には耐水性が劣ることから該化粧料は汗や水によりとれやすく、一方油溶性ポリマーを配合した場合、該化粧料は皮脂によりとれやすいという欠点を有する。これらの欠点を解決するために、従来より水性ポリマーエマルジョンを含有する化粧料が提案されている。例えば、特開昭54-28836号公報、特開昭54-52735号公報、特開昭56-131513号公報、特開昭57-56410号公報にはアクリル系水性ポリマーエマルジョンからなる化粧料(美爪料)が開示されているが、艶、成膜性、耐水性等において未だ満足のいくものではない。

【0003】 また、特開平6-80537号公報には、重合可能な二重結合を有する単置体を可塑剤又は成膜助剤存在下で重合してなる水性エマルジョンを含有する化粧料が開示されているが、成膜性及び艶は非常に優れているものの、抜群の耐水性を有しているとはいえない。そこで、本発明の目的は、抜群の耐水性と、優れた艶及び成膜性を有する化粧料を提供することにある。

【0004】

【課題を解決するための手段】 本発明者らは、上記課題を解決するために鋭意検討を行った結果、重合可能な二重結合を有するシクロアルキル基含有単置体と、該単置体と共に重合可能な二重結合を有する単置体とを構成成分とする水性ポリマーエマルジョンを用いることによって、優れた耐水性を持ち、汗や水に強い化粧料が得られることを見出し、本発明を完成するに至った。即ち、本

発明は、重合可能な二重結合を有するシクロアルキル基含有単置体と、該単置体と共に重合可能な二重結合を有する単置体とを構成成分とする水性ポリマーエマルジョンを、固形分換算で1～60重量%含有することを特徴とする化粧料を提供するものである。

【0005】 本発明において、「水性ポリマーエマルジョン」とは、水を主とする溶剤にポリマーを分散させてなるエマルジョンをいう。本発明において、重合可能な二重結合を有するシクロアルキル基含有単置体としては、低級アルキル基等の置換基を有しても良い炭素数5～12のシクロアルキル基を有する単置体が挙げられ、シクロヘキシルアクリレート又はシクロヘキシルメタクリレートが好ましい。本発明に係わる水性ポリマーエマルジョン中のシクロアルキル基含有単置体成分の含有量は、水性ポリマーエマルジョン中の全構成単置体成分に対して0.1～98重量%が好ましく、5～90重量%が更に好ましく、30～70重量%が特に好ましい。シクロアルキル基含有単置体成分の含有量が0.1重量%未満であると、化粧料の耐水性付与において満足できるものが得られず、また98重量%を越えると、エマルジョンの安定性を損ねるため好ましくない。

【0006】 本発明において、シクロアルキル基含有単置体と共に重合可能な二重結合を有する単置体としては、親水性単置体、疎水性単置体のいずれでもよく、親水性単置体としてはアクリル酸、メタクリル酸、イタコン酸、マレイン酸、スマル酸、クロトン酸等のエチレン性不飽和カルボン酸；ヒドロキシエチルアクリレート、ヒドロキシエチルメタクリレート、グリシジルアクリレート、グリシジルメタクリレート、エチレングリコールジアクリレート、エチレングリコールジメタクリレート、ポリエチレングリコールモノアクリレート、ポリエチレングリコールモノメタクリレート等のヒドロキシ基又はグリシジル基含有エチレン性単置体；アクリルアミド、メタクリルアミド、N-メチロールアクリルアミド、N-メチロールメタクリルアミド、N-ダイアセトニアクリルアミド等のエチレン性アミド；アミノエチルアクリレート、アミノエチルメタクリレート、N、N-ジメチルアミノエチルアクリレート、N、N-ジメチルアミノエチルメタクリレート、N、N-ジエチルアミノエチルアクリレート、N、N-トリメチルアミノエチルメタクリレート、N、N、N-トリメチルアミノエチルメタクリレート等のエチレン性アミン又はその塩などが挙げられる。

【0007】 また、疎水性単置体としては、ステレン、α-メチルステレン、クロロステレン、アルキルステレン、ジビニルベンゼン等の芳香族モノ及びジビニル化合物；メチルアクリレート、メチルメタクリレート、エチルアクリレート、エチルメタクリレート、プロピルアクリレート、プロピルメタクリレート、ブチルアクリレート

(3)

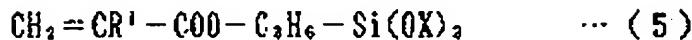
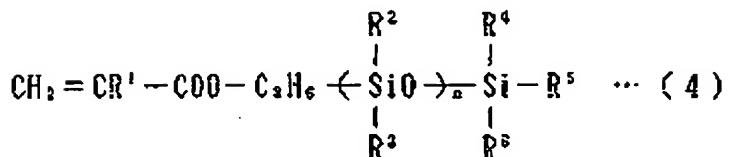
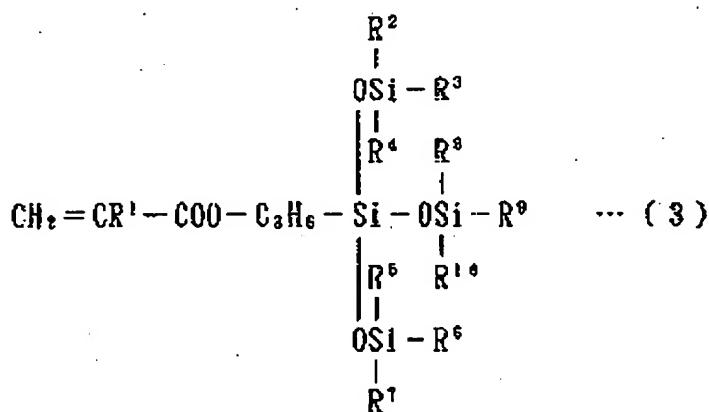
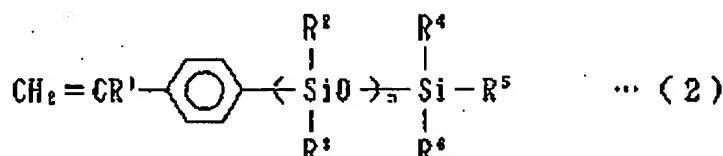
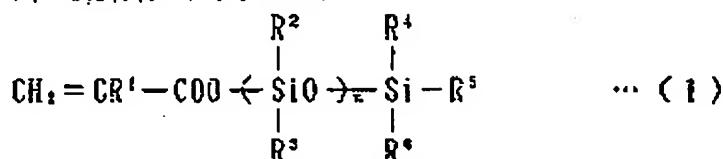
特開平8-

4

3

ト、ブチルメタクリレート、2-エチルヘキシルアクリレート、2-エチルヘキシルメタクリレート、ターシャリーブチルアクリレート、ターシャリーブチルメタクリレート等のアクリル酸エステル及びメタクリル酸エステル；アクリロニトリル、メタクリロニトリル等のシアン化ビニル化合物；酢酸ビニル等のビニルエステル；塩化ビニル、塩化ビニリデン等のハロゲン化ビニル；トリフルオロエチルメタクリレート、2,2,3,3-テトラフルオロ*

*ロブロビルメタクリレート、2,2,3,3,4オロブチルメタクリレート、バーフルオクリレート、バーフルオロオクチルアルキ素系導體；下記の一般式(1)～(5)のようなシリコーンマクロモノマーなど；
【0008】
【化1】



【0009】〔上記式中、R²は水素原子又はメチル基を示し、R³～R⁶はそれぞれ低級アルキル基、低級アルゴキシ基又はフェニル基を示し、Xは下記式；
【0010】

%、上記シクロアルキル基含有導體を；
導體が70～100重量%の組合せを用いる；
親水性導體が10～15重量%、上記シクロ
40 有單體を含めた親水性單體が85～10

(4)

特開平8-

5

トル、ジブチルカルピトール等のカルピトール類；エチレンカーボネット、プロピレンカーボネット等のカーボネット類；セロソルブアセテート、ブチルセロソルアセテート、ブチルカルピトールアセテート、スクロースアセテート等のアセテート類；ヘキサノール、ベンジルアルコール、フェネチルアルコール等のアルコール類；ヘキシレングリコール、エチレングリコール、プロピレングリコール等のジオール類；タル酸ジエステル類、アジピン酸ジエステル類、コハク酸ジエステル類、セバシン酸ジエステル類、アピエチン酸エステル類、カブリル酸エステル、カプロン酸エステル、酢酸エステル、エナント酸エステル、ミリスチン酸エステル、クエン酸エステル等のエステル類；スクロースベンゾエート等の安息香酸エステル；ジェチルベンゼンなどが挙げられる。

【0014】可塑剤又は成膜助剤の添加量は、重合安定性、貯蔵安定性及び塗膜の耐水性、耐久性などの点で上記单量体100重量部に対し1～50重量部が好ましく、5～30重量部がさらに好ましい。

【0015】本発明において使用される重合開始剤としては、特に限定されないが、例えばケメンハイドロバーオキサイド、ジイソプロピルベンゼンハイドロバーオキサイド、パラメンタンハイドロバーオキサイドなどのハイドロバーオキサイド類、ベンゾイルバーオキサイド、ラウロイルバーオキサイド等のバーオキサイド類及びアゾビスイソブチロニトリル等のアゾ化合物類などの有機系重合開始剤、並びに過硫酸カリウム、過硫酸ナトリウム、過硫酸アンモニウムなどの過硫酸塩などの無機系重合開始剤などが挙げられる。また、重亜硫酸ナトリウム、アスコルビン酸及びその塩等の還元剤を重合開始剤と組合せて用いる、いわゆるレドックス系重合開始剤も使用することができる。

【0016】また、上記重合時には、分散安定化のため界面活性剤を添加することが好ましい。使用される界面活性剤には特に制限はなく、一般的のアニオン系、カチオン系又はノニオン系界面活性剤が挙げられる。また、アニオン系とノニオン系の組合せ、カチオン系とノニオン系の組合せ等のように2種以上を併用してもよい。

【0017】ノニオン系界面活性剤としては、例えばポリエチレンオキサイドアルキルエーテル、ポリエチレンオキサイドアルキルフェニルエーテル、ポリエチレンオ

【0018】上記重合時には、さらに重添加してもよい。使用される重合連鎖移動剤としては、例えば、オクチルメルカプタン、メルカプタン、メードデシルメルカプタデシルメルカプタン、n-テトラデシルt-テトラデシルメルカプタンなどのメシメチルキサントゲンジスルフィド、ジゲンジスルフィド、ジイソプロピルキサフィドなどのキサントゲンジスルフィド、ルチウラムジスルフィド、テトラエチルフィド、テトラブチルチウラムジスルフラムジスルフィド類；四塩化炭素、臭化ハロゲン化炭化水素類；ベンタフェニル化水素類；及びアクロレイン、メタクロアルコール、2-エチルヘキシルチオグリノーレン、α-テルビネン、γ-テシテン、α-メチルスチレンダイマー(ル-4-メチル-1-ベンテンが50重量好ましい)、さらに9,10-ジヒドロアンジヒドロナフタレン、インデン、1,4-ジエン等の不飽和環状炭化水素化合物；2,5-ジヒドロフラン等の不飽和ヘテロ環挙げられる。これらは、単独でも2種以上してもよい。

【0019】本発明における重合は、例、溶液重合、バルク重合、沈殿重合、懸乳の方法により行なうことができる。重合水性ポリマーの重合平均分以下が好ましく、10,000～100,000がさ

【0020】本発明の化粧料中には、上エマルジョンはそれぞれ1種を配合し、種以上を複合して配合してもよい。2種の場合、ガラス転移温度の異なるポリマー合せることもできる。またこれらの水性シジョンは、本発明の化粧料中に、全化粧で1～60重量%配合される。含有量が1本発明の効果が得られず、一方、60重量%の粘度が高くなりすぎ、製剤化及び塗布が困難となる。

【0021】本発明の化粧料には、本発

(5)

特開平8-

7

テアリン酸マグネシウム、ステアリン酸亜鉛、ステアリン酸アルミニウム、ステアリン酸カルシウム、ラウリル硫酸ナトリウム、ラウリル硫酸トリエタノールアミン、セチル硫酸ナトリウム、ポリオキシエチレンラウリルエーテル硫酸トリエタノールアミン、ポリオキシエチレンラウリルエーテル硫酸ナトリウム、ポリオキシエチレンラウリルエーテル磷酸、ポリオキシエチレンラウリルエーテル磷酸ナトリウム、ポリオキシエチレンセチルエーテル磷酸、ポリオキシエチレンセチルエーテル硫酸ナトリウム、ポリオキシエチレンステアリルエーテル磷酸、ポリオキシエチレンオレイルエーテル磷酸、ポリオキシエチレンオレイルエーテル硫酸ナトリウム、ポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテル磷酸、ポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテル磷酸トリエタノールアミン、ポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテル磷酸ナトリウム、ラウロイルサルコシンナトリウム、大豆リシン脂質等のアニオン界面活性剤；塩化ステアリルトリメチルアンモニウム、塩化ジステアリルジメチルアンモニウム、塩化ベンザルコニウム、塩化ベンゼトニウム、塩化ステアリルジメチルベンジルアンモニウム、塩化セチルビリジニウム、臭化アルキルイソキノリニウム、臭化ドミフェン等のカチオン界面活性剤；β-ラウリルアミノプロピオン酸ナトリウム、ラウリルジメチルアミノ酢酸ベタイン、2-アルキル-N-カルボキシメチル-N-ヒドロキシエチルイミダゾリニウムベタイン等の両イオン性界面活性剤；自己乳化型モノステアリン酸グリセリン、親油型モノステアリン酸グリセリン、親油型モノオレイン酸グリセライド、モノステアリン酸エチレングリコール、モノステアリン酸プロピレングリコール、ジオlein酸プロピレングリコール、モノラウリン酸ソルビタン、モノバルミチン酸ソルビタン、モノステアリン酸ソルビタン、モノオlein酸ソルビタン、セスキオlein酸ソルビタン、トリオlein酸ソルビタン、ショ糖脂肪酸エステル、ウンデシレン酸モノエタノールアミド、ラウリン酸ジエタノールアミド、ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド、モノラウリン酸ポリエチレングリコール、モノステアリン酸ポリエチレングリコール、乳酸ミリスチル、乳酸セチル、ポリオキシエチレンラウリルエーテル、ポリオキシエチレンセチルエーテル、ポリオキシエチレンス

10

20

30

40

リオキシエチレンソルビット、モノオレシエチレンソルビタン(2GEO)、トリオキシエチレンソルビタン(2GEO)、テトロキシエチレンソルビット、ポリオキビットミツロウ、ポリオキシエチレンヒキシエチレン硬化ヒマシ油、ポリオキシン等のノニオン界面活性剤等が挙げられる。【0023】さらに増粘剤としては、ポール、ポリビニルピロリドン、ポリアクリエチレンオキシド、メチルセルロース、チルセルロース、ヒドロキシプロピルメス、カチオン化グーガム、カチオン化有機系増粘剤や、無機系のベントナイト、マイト等の含水酸化物等が使用できる。

【0024】本発明の化粧料は、各種フン、アイシャドウ、アイライナー、アイラ、ネイルエナメル等のメイクアップ化粧、口紅、ほほ紅、サンスクリーン等の毛製化粧料、薬用化粧料などに広く応用され、それぞれの用途に応じて煮法に従いできる。

【0025】

【発明の効果】本発明の化粧料は、皮膚に付けて、抜群の耐水性と、優れた艶及び成汗や皮脂により流れたり、それたりするなわち化粧崩れのないものである。また、ナメル等に用いた場合には、非粘着性、硬度、耐水性、密着性、耐摩擦性等に優れる。

【0026】

【実施例】以下、合成例及び実施例により説明するが、本発明はこれらに限定されない。尚、以下において「部」、「%」は部、「重量%」を示す。

【0027】合成例1

攪拌機、遠心冷却器、滴下ロート、温度計を備えた反応容器に水150部、ポリオキシリルエーテル硫酸ナトリウム0.5部、過酸化水素0.5部、シクロヘキシルメタクリレート6部、シクロヘキシルアクリレート15.5部、ステアロキシエチルメタクリレート3部、ア

(5)

特開平8-

9

スパーを用いて30分攪拌し、水性ポリマーエマルジョン(1)（固形分40%）を得た。

【0028】合成例2

合成例1で用いた反応容器に水150部、ラウリル硫酸ナトリウム3.0部、過硫酸アンモニウム0.5部、シクロヘキシリメタクリレート60部、n-ブチルアクリレート29部、スチレン10.0部、アクリル酸1部、ジブチルタルート5部及びn-ドデシルメルカプタン2.5部を仕込み、窒素ガスを流し、溶存酸素を除去した。攪拌下に反応容器内を70℃まで昇温し、3時間かけて重合を行なった。3時間同じ温度で熱成後、若干の凝聚物を除き、固形分40%のエマルジョンを得た。参考例1と同様に測定したところ、上記エマルジョン中の共重合体のTgは30℃、Mwは58000であった。上記エマルジョン100部にブチルカルビトールアセテート15部を加え、ホモディスパーを用いて30分攪拌し、水性ポリマーエマルジョン(2)（固形分40%）を得た。

【0029】合成例3

合成例1で用いた反応容器に水150部、ポリオキシエチレンノニルフェニルエーテル3.0部、過硫酸カリウム0.5部、スチレン45部、シクロヘキシリメタクリレート30部、2-エチルヘキシリメタクリレート20部、ヒドロキシエチルメタクリレート5部、クエン酸アセチルトリエチル15部及びn-ドデシルメルカプタン1.5部を仕込み、窒素ガスを流し、溶存酸素を除去した。攪拌下に反応容器内を70℃まで昇温し、3時間かけて重合を行なった。3時間同じ温度で熱成後、若干の凝聚物を除き、固形分40%のエマルジョンを得た。参考例1と同様に測定したところ、上記エマルジョン中の共重合体のTgは47℃、Mwは70000であった。上記エマルジョン100部にメチルセロソルブ20部を加え、ホモディスパーを用いて30分攪拌し、水性ポリマーエマルジョン(3)（固形分40%）を得た。

【0030】合成例4

合成例1で用いた反応容器に水125部、ラウリル硫酸ナトリウム3.0部、過硫酸アンモニウム0.5部、シクロヘキシリメタクリレート45部、スチレン35部、メチルメタクリレート25部、クエン酸アセチルトリエチル15部及びn-ドデシルメルカプタン2.5部を仕込み、窒素ガスを流し、溶存酸素を除去した。攪拌下に反応容器内を70℃ま

10

タクリレート60部、n-ブチルアクリレン10.0部、アクリル酸1部、ジブチルタルート5部及びn-ドデシルメルカプタン2.5部を仕込み、窒素ガスを流し、溶存酸素を除去した。攪拌下に反応容器内を70℃まで昇温し、3時間かけて重合を行なった。3時間同じ温度で熱成後、若干の凝聚物を除き、固形分40%のエマルジョンを得た。参考例1と同様に測定したところ、上記エマルジョン中の共重合体のTgは30℃、Mwは58000であった。上記エマルジョン100部にブチルカルビトールアセテート15部を加え、ホモディスパーを用いて30分攪拌し、水性ポリマーエマルジョン(4)（固形分40%）を得た。

【0032】実施例1（アイシャドウ）
下記の製造方法により、以下に示す組成を製造した。得られたアイシャドウは既往に優れるものであった。

組成

マイクロクリスタリンワックス

ステアリン酸

流動パラフィン

ラノリン

ソルビタンモノステアレート

グリセリン

トリエタノールアミン

メチルセルロース

水性ポリマーエマルジョン(1)

パール顔料

群青

イオン交換水

香料

防腐剤

＜製造方法＞イオン交換水にメチルセルロース、トリエタノールアミンを溶解してパール顔料及び群青を均一に分散する。マイクロクリスタリンワックス等の油相成分を前記水相中に攪拌しながら添加し乳化を後、水性ポリマーエマルジョン(1)及び(2)を加えて青色のクリームタイプアイシャドウを得た。

【0033】実施例2（マスカラ）
下記の製造方法により、以下に示す組成

40

(7)

特開平8-

11

12

香料

微量

防腐剤

微量

<製造方法>イオン交換水にメチルヒドロキシプロピルセルロース、タルク及び水性ポリマーエマルジョン(2)を添加し、均一に搅拌混合した後に、黒色酸化鉄、グリセリン、ポリオキシエチレンソルビタンモノオレートからなる着色ペーストを添加して均一に混合し、香料及び防腐剤を加えて黒色のマスカラとする。

【0034】実施例3(アイライナー)

下記の製造方法により、以下に示す組成の液状皮膜タイプのアイライナーを製造した。得られたアイライナーは艶及び耐水(汗)性に優れるものであった。

組成 (重量%)

水性ポリマーエマルジョン(3) 58.0

カーボンブラック 6.0

二酸化チタン 3.0

ポリオキシエチレンソルビタンモノステアレート 1.0

グリセリン 3.0

メチルセルロース 1.0

イオン交換水 残量

香料 微量

防腐剤 微量

<製造方法>イオン交換水にポリオキシエチレンソルビタンモノステアレートを溶解し、それにカーボンブラック及び二酸化チタンを混合し、コロイドミルを用いて均一に分散させる。これをグリセリン、メチルセルロース及び水性ポリマーエマルジョン(3)を添加し、均一に混合し、最後に香料、防腐剤を添加して黒色の皮膜タイプ*

*ブアイライナーとする。

【0035】実施例4~7及び比較例1ル)

下記の製造方法により、表1に示す組成を製造し、得られたネイルエナメルの及び耐摩耗性をそれぞれ下記評価方法に結果を表すに示す。

<製造方法>イオン交換水に顔料を分散ポリマーエマルジョン(1)~(5)の成分を添加し、均一に搅拌混合し、最後にネイルエナメルを製造した。

【0036】<評価方法>

(a) 耐水性: 0.5×15×40mmの大きさのナットをネイルエナメル筆にて均一に塗布し、度60%の条件下で1時間乾燥後40°Cの水の劣化度(劣化しにくさ)(白濁、膨潤等)を観察し、下記基準で評価した。

(b) 接着性: 25°C、相対湿度60%の条件下ネイルエナメル筆にて塗布し乾燥させる。

(c) 耐摩耗性: 30分後の乾燥塗膜を木綿した後の摩耗度(摩耗しにくさ)を観察評価した。

(評価基準)

◎: 級めて良好 ○: 良好 △: 普通

【0037】

【表1】

		実施例4	実施例5	実施例6	実施例7	比較例1
組成	水性ポリマーエマルジョン(1)	86.6	—	—	—	—
	水性ポリマーエマルジョン(2)	—	83.6	—	—	—
イ	水性ポリマーエマルジョン(3)	—	—	86.6	—	—
ル	水性ポリマーエマルジョン(4)	—	—	—	86.6	—
エ	水性ポリマーエマルジョン(5)	—	—	—	—	86.6
ナ	顔料(赤色顔料R-226)	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6
メ	メチルセルロース	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
ル	イオン交換水	適量	適量	適量	適量	適量